

れているので、とにかく津波から逃げることを第一に考えます。自宅周辺のハザードマップでは被害が想定されていませんが、想定以上の事が起こると仮定して行動しなければと思います。幸い自宅より高所に小学校と中学校があるので避難したいと思いますが、避難した後に健常者と同様の支援が受けることができるのかが不安です。私の自宅周辺に福祉避難所は無いので、自宅での避難待機生活になると思います。

こうやって文字に起こして書いていくと、災害時の対策というのは重度障害者にとって重要な課題だと改めて感じます。

● 枚方市在住、SYさん（C-5・呼吸器不要）（電動ティルトリクライニング・自走）
私の場合は自宅周辺に福祉避難所やそれに準ずる高齢者施設は無いので、自宅が残れば自宅で避難生活になる。水害のハザードマップでは3-5mの水没と建物は半壊になる地域なので何処へ避難するのか検討中です。

必要な薬は2週間分予備で持っていて、外出時も2日分ぐらいは持って出ています。

星ヶ丘医療センター ピアサポート報告

大阪頸髄損傷者連絡会 杉本真一

2月23日（土）に星ヶ丘医療センターで「受傷後の経験談あれこれ Part43」がおこなわれました。今回、頸損連から石川さん、杉本さん、島本さん、土田さん、羽富さんが参加、患者さんは1名の参加でした。



今回の患者さんは十代の方でスポーツ事故が受傷原因でした。私と同じ様な受傷時期、受傷原因及び受傷レベルでしたので、非常に親近感を持ちました。ただ、大きく異なっているのは、まだ受傷して半年ということでしたが、自律神経機能が安定していることでした。

例えば、受傷当時、私は貧血症状が激しくベッドから車椅子に乗るたびに倒れていましたが、私達と話し合いをしていました約2時間、

しっかりと姿勢良く座られていましたので、回復力の速さが凄いと思いました。最後に、早期の就職を目指されるということで職業リハビリについて熱心に耳を傾けていました。

症状的にはまだまだ回復途中であるといえますが、頸損連としても積極的に情報連携等のサポートを行っていきたいです。